

令和7年度  
文化アセスメント  
実施結果報告書

2026（令和8）年5月

川崎市文化芸術振興会議

令和8年5月11日

川崎市長 福田 紀彦 様

川崎市文化芸術振興会議 会長 川崎 一泰

## 令和7年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興条例第8条の規定に基づき、令和7年度の文化アセスメントを実施いたしましたので、結果を御報告いたします。

文化アセスメントは、自由で多彩な創作活動が生まれ、多様性と包摂性を育み、新たな価値を生み出すなど、「すべての市民が文化芸術に気軽に触れ、親しめるまち」を目指すまちの姿に掲げる「第3期川崎市文化芸術振興計画」上の重要な事業を選び、その事業の取組内容について実地により確認を行いながら、事業の目的や、計画における該当施策の内容を踏まえた視点などについて総合的に検証した上で、川崎市文化芸術振興計画の目的達成に向けた改善の方向性等について文化政策的提言を行うものです。

令和7年度の文化アセスメントの対象事業は、「音楽文化振興事業（神奈川フィルハーモニー管弦楽団補助事業）」及び「川崎市文化財団事業（ラゾーナ寄席）」を選定しました。

評価作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が「神奈川フィルハーモニー管弦楽団」による各種公演や「ラゾーナ寄席」を現地視察するとともに、事業関係者や担当行政部局等からのヒアリングおよび意見交換などを実施しながら調査を進め、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により報告書を作成いたしました。限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、現時点での最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の関連施策に適切に反映されることを期待いたします。

条例の前文にもあるように、「文化芸術は、今日、市民が人間らしく豊かに暮らすために不可欠のものであり、世界平和の礎を築き、都市生活の質を高める重要な役割を担うとともに、創造的な市民や企業を育て、持続的に発展する都市をつくり出す源となるもの」であり、これまで川崎市が市民とともに積み上げてきた文化芸術活動を決して絶やさず、今後もより発展させていくことで、「個性と魅力が輝き、市民が生き活きと心豊かに暮らせるまちづくり」を進めていくことを願っています。

## 令和7年度文化アセスメント実施結果報告

### 1. 対象事業

#### (1) 「音楽文化振興事業（神奈川フィルハーモニー管弦楽団補助事業）」

##### 【選定理由】

本事業は、第3期川崎市文化芸術振興計画における下記の基本目標及び施策に該当する事業であり、神奈川フィルハーモニー管弦楽団による音楽鑑賞の機会の提供や、音楽活動の振興等に係る事業の評価を行うことで、今後の「音楽のまち・かわさき」の取組を一層推進していくため。

【基本目標1/施策1】 施策名：文化芸術を活かしたまちづくりの推進

【基本目標2/施策1】 施策名：文化芸術を支える人材の育成と活躍の機会の提供

#### (2) 「川崎市文化財団事業（ラゾーナ寄席）」

##### 【選定理由】

本事業は、第3期川崎市文化芸術振興計画における下記の基本目標及び施策に該当する事業であり、ラゾーナ川崎プラザソルにおいて川崎市文化財団が自主事業として開催している「ラゾーナ寄席」の評価を行うことで、地域に根差した伝統文化に関する取組を一層推進していくため。

【基本目標1/施策3】 施策名：「川崎の文化芸術」の魅力発信

【基本目標2/施策1】 施策名：文化芸術を支える人材の育成と活躍の機会の提供

### 2. 実施経過

#### (1) 資料確認及び現地視察、事前ヒアリング項目作成

令和7年4月～10月

#### (2) 事業担当者等ヒアリング

令和7年12月2日 第70回会議

#### (3) 報告書案の検討、確定

令和8年3月2日 第71回会議

## 音楽文化振興事業（神奈川フィルハーモニー管弦楽団補助事業）

### （１）事業の目的・概要

担当課	市民文化振興室	
計画上の位置づけ	基本目標 1 / 施策 1	文化芸術を活かしたまちづくりの推進
	基本目標 2 / 施策 1	文化芸術を支える人材の育成と活躍の機会の提供
目的	公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団に対して、予算の範囲内で補助金を交付することで、音楽の鑑賞の機会の提供、音楽活動の振興等を図り、もって「音楽のまち・かわさき」の取組の推進に寄与することを目的とする。	
事業概要	神奈川フィルハーモニー管弦楽団は、地域に密着した音楽文化創造を使命に、市民に質の高い音楽芸術の鑑賞機会を提供することを目的としており、補助金を活用し、①市内の公立小中学校訪問する「学校出張コンサート」、②川崎駅前地下街アゼリアのサンライト広場で開催する「まちなかコンサート」、③ミューザ川崎シンフォニーホールを活用した「ホール公演」を開催している。	

### 主な事業内容

令和7年度の実施内容
<p>①学校出張コンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月～6月にかけて市内の公立小中学校（5校）を対象に出張コンサートを実施</li> </ul> <p>②まちなかコンサート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に川崎駅前地下街アゼリアのサンライト広場において2公演を実施</li> </ul> <p>③ミューザ公演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ミューザシリーズ」として、5月～12月にかけてミューザ川崎シンフォニーホールにおいて3公演を実施</li> </ul>

### （２）評価

取組への評価
<p><b>（１）事業の目的（設定の妥当性、達成手段の妥当性、達成度）</b></p> <p>本事業は、公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団への補助を通じて、市民への音楽鑑賞機会の提供および音楽活動の振興を図り、もって「音楽のまち・かわさき」の推進に寄与することを目的としている。目的は、川崎市文化芸術振興計画に掲げる「文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり」や「市民が文化芸術に触れる場と機会の創出」、「人材の育成とつながりによる地域課題への対応」の趣旨と整合しており、文化的施策の視点と一致している。</p> <p>学校出張コンサート等のアウトリーチや、まちなかコンサート等による偶発的な鑑賞機会の創出、ミューザ川崎シンフォニーホールを活用した高品質な公演等を通じて、目的達成に資する多層的な手段が講じられている。一方、広報手段の最適化や開催に係る地域バランスの課題など、改善に向けた余地がある。</p>

令和7年度は、学校出張コンサート5校（対象児童：約1,500人）、まちなかコンサート2公演（来場者数：約300人）、ミュージア公演3回（来場者数：約5,000人）を実施し、市民が質の高い生の音楽に触れる機会は安定的に提供されている。学校出張コンサートでは教育的な波及効果も確認できる一方、まちなかコンサートについては、開催バランスや情報提示の改善に向けて検討する必要がある。

## （2）川崎市文化芸術振興計画における施策の視点を踏まえた評価

**■施策の視点 a：【多様な団体等と連携して老若男女、様々な環境の人が身近に音楽に親しめる環境、演奏できる環境を創出するで、音楽によるまちづくりの裾野を広げ、音楽によるまちづくり、人づくりに取り組んでいるか】**

JR 駅直結のアゼリア地下街など人の往来が多い場所で実施し、演奏水準の高さと親しみやすい選曲により、幅広い市民が自然と立ち止まり参加するなど、偶発的な出会いから鑑賞が生まれる様子が見られ、多様な市民に音楽のすばらしさを伝える機会を提供することが確認できた。一方で、開催場所の偏りにより市内南部・中部・北部のバランスに課題があることや、座席配置や滞留環境の整備、時間・場所・出演者等の情報提示の分かりやすさや取組効果の見える化などについては改善の余地があるものと考えられる。

**■施策の視点 b：【ミュージア川崎シンフォニーホールを中心とした良質な音楽の提供を行っていることにより、「音楽のまち・かわさき」の魅力を発信できているか】**

世界水準の音響を備えたホール特性を活かし、高品質な演奏を安定的に提供している。加えて、選曲や編成の工夫、プレトークによる曲目解説やレクチャー等により鑑賞体験の質を高める取組が行われており、さらに公演後にロビーで出演者がお客さまをお見送りする等により、演奏者と観客の距離を縮める効果が確認できる。

**■施策の視点 c：【子どもや若者が文化芸術に触れ、楽しむきっかけづくりや、文化芸術活動への支援が充実しているか。】**

質の高い生の演奏に触れる体験を通じて、児童の鑑賞態度や感性の育ちに資するとともに、楽器紹介や曲目解説等により音楽授業との接続も図られている。また、プログラム構成やコンサート進行の質も高いことから、子どもたちが文化芸術を楽しみ、体験できる取組であることが確認できる。一方で現状の実施回数が多いことが、提供機会の面で十分とはいえないことから、様々な手法を検討するなど、改善の余地があるものと考えられる。

総合評価	□ A : 継続	■ B : 改善	□ C : 見直し
------	----------	----------	-----------

**評価の理由等**

学校出張コンサート、まちなかコンサート、ミュージアム公演という「多層的な手段」により、市民が質の高い生の音楽に触れる場を安定的に提供できていると考えられる。とりわけ、学校出張コンサートでは「教育的な波及効果」が確認でき、曲目解説等により音楽授業との接続も図られており、まちなかコンサートでは JR 駅直結のアゼリア等で「偶発的鑑賞機会」の創出が見られ、ミュージアム公演においては「世界水準の音響を活かした高品質な演奏」やプレトーク等により鑑賞体験の質向上が確認できる。令和7年度は学校出張5校、まちなか2公演、ミュージアム3公演を実施し、目的達成に資する多面的な取組として総合的に評価できる。

一方、学校出張コンサートにおいては、実施回数が多いことから、提供機会の面で十分とは言えない状況があることから、市内における鑑賞機会の提供及び音楽活動の振興を、より確実に担保するうえで改善の余地があると考えられる。

また、まちなかコンサートにおいては、開催箇所に偏在が見られることから、市内南部・中部・北部のバランスに配慮が必要であるほか、開催前の情報提示の分かりやすさや、滞留環境の整備など運用面の工夫が求められる。加えて、取組効果の見える化の観点から、成果の把握に向けた取り組みが必要である。

**提言**

本事業は、地域に密着したオーケストラとして多層的な演奏展開により、市民に対して質の高い生の音楽に触れる場を安定的に提供するとともに、本市における音楽の鑑賞機会の提供と音楽活動の振興に寄与するなど、文化芸術を活かしたまちづくりの推進に加え、人材育成と活躍機会の提供にもつながっていると考えられる。

学校出張コンサートについては、引き続き、解説付き演奏等により鑑賞体験の質の向上を維持しながら、取組意義や効果の発信を強化し、子どもや若者が文化芸術に触れるきっかけづくりと人材育成を継続的に推進するとともに、多様な主体との様々な機会を捉えた横断的な連携により提供機会の確保に向け取り組むことが望ましい。

まちなかコンサートについては、開催箇所の偏在等を踏まえ、市内中・北部への展開や週末帯の試行を段階的に実施するなど、会場分布の見直しに向けた検討を行うとともに、様々な機会を捉え関係機関と連携することで取組の一層の展開が望まれる。また、時間・場所・出演者等に関する分かりやすい情報提示や取組の魅力発信を行うとともに、座席配置や滞留環境の整備を行うなど、広報手段の最適化と運用面の改善を一体的に進めることが適当である。さらに効果の見える化については、観客へのアンケートを実施するなど当該事業の目的である鑑賞機会の提供や音楽活動の振興等に対する取組の寄与について把握し、得られた結果に応じたフィードバック等により、今後の効果的な事業運営に繋げることが望ましいと考える。

なお、本件の総合評価を「改善」としているのは、神奈川フィルハーモニー管弦楽団補助事業の確かな価値を踏まえ、その魅力をより多くの市民へ届けるため、前述の提言を基に、取組がさらに展開していくことに期待する趣旨で選択したものである。

## 「川崎市文化財団事業（ラゾーナ寄席）」

### （１）事業の目的・概要

担当課	市民文化振興室	
計画上の位置づけ	基本目標 1/施策 3	「川崎の文化芸術」の魅力発信
	基本目標 2/施策 1	文化芸術を支える人材の育成と活躍の機会の提供
目的	市役所近くにあった喫茶店が 1986 年から実施していた地域寄席が終了するにあたり、川崎市文化財団が文化継承のため、同財団が運営するラゾーナ川崎プラザソルにおいて、自主事業として開催することとし、落語を身近に楽しんでもらい、若い落語家には芸を磨く場を提供していくことで、地域に根差した伝統文化を育て発展させていくことを目的とする。	
事業概要	<p>■公演場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラゾーナ川崎プラザソル多目的ホール（客席最大 200 席）</li> </ul> <p>■公演日時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月第 3 火曜日開催 午後 6 時 30 分から 2 時間程度</li> </ul> <p>■内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真打の一玄亭米多朗、初音家左橋の両氏が世話人を務め、隔月交代で出演するほか、真打、二つ目、前座の各 1 名の出演者と合せて、毎回 4 名が出演する。</li> <li>・抽選会を実施し、景品としてユースキンや飲食店から協賛品を提供してもらっている。（コロナ禍前までは、「ラゾーナ寄席」の開催後、演者と「ラゾーナ寄席を支える会」参加者との交流会も行われていた。）</li> </ul> <p>■チケット料金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般 2,000 円 25 歳以下 1,000 円（全席自由）</li> </ul>	

### 主な事業内容

令和 7 年度の実施内容
<p>■ラゾーナ寄席 2025 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 月 15 日、5 月 20 日、6 月 17 日、7 月 15 日、8 月 19 日、9 月 16 日、10 月 21 日、11 月 18 日、12 月 16 日</li> </ul> <p>（計 9 回開催）</p> <p>■ラゾーナ寄席 2026 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 月 20 日、2 月 17 日、3 月 17 日</li> </ul> <p>（計 3 回開催）</p>

### （２）評価

取組への評価
（１）事業の目的（設定の妥当性、達成手段の妥当性、達成度）
<p>本事業は、ラゾーナ川崎プラザ内施設で毎月の寄席を継続し、市民が伝統芸能の落語に生で触れる機会を創出するとともに、人材育成にも資する取組である。また、振興計画に掲げる「日本の歴史的伝統文化の継承」「市民の身近な鑑賞機会創出」「人材育成」と整合し、川崎市由来の世話人や演者を軸に地域文化資源を活かす点でも文化的施策の視点と一致している。</p>

目的の達成に向け、駅直結の集客環境を活かした定期開催に加え、演者構成による育成・鑑賞の両立設計は概ね適切だと考える。一方、広報について、ポスターやチラシ、施設 HP や X 等による告知は行われているものの、商業施設側の掲出制約や若年層を含めた未来館層への情報伝達の弱さ等により認知が伸び悩んでおり、駅前での分かりやすいポスター掲出による視認性向上や SNS による発信強化、大学等との連携など、改善の余地があると思われる。

来場者数は一定の集客を確認できる一方、収支均衡に係る試算を考慮すると、現行料金では採算が難しく、継続的な収支不足が課題である。集客は「ラゾーナ寄席を支える会」によるリピーター確保や、地元金融機関の招待枠など協賛や販売の枠組みを導入し改善を図っている。今後は、段階的な料金設定の引き上げ等も含め、収支改善に向けた検討が求められる。

## (2) 川崎市文化芸術振興計画における施策の視点を踏まえた評価

### ■施策の視点 a：【個性と魅力あふれる川崎の文化芸術を戦略的に発信することにより、市内外から人々を呼び込み、賑わいのあるまちづくりや地域などでの文化交流が図れているか】

駅直結の立地環境を活かしたアクセス性の良さや定期開催の連続性により集客力を図り、生の落語に触れる機会を市民に提供している。また、前座・二ツ目・真打が一堂に会する本格的プログラムで、鑑賞機会の質と育成に寄与し、川崎市在住の真打落語家が世話人を務めることで地域密着への配慮もある。

広報については、ポスターやチラシ、施設 HP や X 等で継続的に発信を行っているが、商業施設内での掲出制約により、会場までのアクセス情報が十分に届きにくいことや、SNS 活用の不足、若年層への情報伝達の弱さ等に課題があると考えられる。今後は駅前における分かりやすいポスター掲出に加え、大学の落語研究会や学内サークルなどに対するアンケート等によるニーズ分析を踏まえた若年層向けの SNS による発信強化、近隣文化施設との相互掲出を強化するなど、効果的な広報手段の工夫が求められる。

来場者数は一定の集客（1公演あたり約 80 名程度）を確認できる一方、収支均衡の目安は、1回あたり 125 名程度と試算される中で、現行料金（一般：2,000 円、U25：1,000 円）では採算が難しく、継続的な収支不足が課題である。集客については、「ラゾーナ寄席を支える会」といった会員制度の実施により、リピーター客の確保を図るとともに、新たに、地元金融機関による招待枠（各回 40 名程度）など、協賛や販売の枠組みを導入し改善を図っており、今後は料金設定や座席運用の見直し等を段階的に検討するとともに、週末モデルの試行や、来場者が気軽に入れる雰囲気づくりを行うなど、収支改善に向けた工夫が望まれる。

### ■施策の視点 b：【文化芸術活動を行う人材の育成を進めるとともに、その活動の場を広げていくための取組となっているか】

各回公演において、前座・二ツ目の登用を制度設計として位置付け、真打と同じ舞台上で経験を積める機会を継続確保されており、若手は緊張感の中で芸を磨き、観客は成長を継続的に見守るなど、地域に根差した応援の循環が生まれている。世話人の配慮により地元ゆかりの若手が登場する回もあり、つながりや愛着の醸成にもつながっている。今後も「登用の仕組み」と「継続的な場の提供」を軸として、人材育成の取組の可視化とファン層拡大が求められる。

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続	<input checked="" type="checkbox"/> B : 改善	<input type="checkbox"/> C : 見直し
------	---------------------------------	--	----------------------------------

**評価の理由等**

本事業は、駅直結のアクセスと毎月の定期開催により、市民が「生の落語に触れる機会」を継続的に提供していると考えられる。また、前座・二ツ目・真打が一堂に会する本格的プログラムは、鑑賞機会の質と育成の両面に寄与し、川崎ゆかりの世話人による人選・継承を通じて地域ネットワークが活かされている。さらに、地元金融機関による招待枠等の協力により、一定の来場者基盤が維持されている点も評価できる。

ただし、会場までのアクセス情報が十分に届きにくいことや、SNSの活用不足、若年層への情報伝達の弱さ等による認知の伸び悩みが課題として挙げられることから、アンケート結果に基づくニーズ分析等を踏まえた若年層に向けた発信強化を行うなど、効果的な広報手段の工夫が求められる。

また、来場者数は一定の集客を確認できる一方、収支均衡に係る試算を考慮すると、現行料金では採算が難しく、継続的な収支不足が課題であり、収支改善に向けた工夫や実施方法について検討が求められる。

**提言**

本事業は、文化芸術振興計画に掲げる「日本の歴史的伝統文化の継承」「市民の身近な鑑賞機会創出」「人材育成」と整合していることから、今後も駅直結の立地環境を活かしたアクセス性の良さや定期開催の連続性により、集客力を図りつつ、「生の落語に触れる機会」を市民に提供することが望ましい。

一方、広報については、駅前における分かりやすいポスター掲出等による会場までの案内の工夫に加え、大学の落語研究会や学内サークルなどに対するアンケート等によるニーズ分析を踏まえた若年層向けのSNSによる発信強化、近隣文化施設との相互掲出の強化など、若年層も含めた未来館層への情報発信と広報手段の最適化を図ることが求められる。

また、継続的な収支不足については、収支均衡を目指して会員制度の継続や企業・団体による招待枠の一括購入の促進等に加え、料金設定や座席運用の見直し等を段階的に検討するとともに、開催日時・開催場所の柔軟なモデル試行や、来場者が気軽に入れる雰囲気づくりを行うなど、収支改善に向けた工夫が望まれる。

これらを複合的に講じることで、「生の落語に触れる機会」を確保しながら、裾野拡大と継続的な収支のバランスを高め、地域に根差した運営の持続可能性が高まることを期待したい。

令和7年度文化アセスメント実施結果報告書  
2026（令和8）年5月

川崎市文化芸術振興会議

（事務局） 川崎市市民文化局市民文化振興室  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1  
電話 044-200-2029  
FAX 044-200-3248